

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別：保育所
事業所名：松本やまびこ保育園

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】内容評価項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点（実施している場合は■）	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。 ■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。 ■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。 ■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。 ■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。 	<p>[取り組み状況] 法人の「礼節」「忍耐」「誠実」の理念をもとにして園独自のグランドデザインを立案し、子どもが真ん中～体をつくろう・心をつくろう・子どもが主人公との保育を目指している。</p> <p>[検討課題] 園の提供する保育課程について、全職員へ更に周知して園全体の計画の一貫性や連続性が保たれているかを常に検証し、併せて、保護者へも保育過程をわかりやすく説明して保護者視点からの意見を把握・集約するなどすると、お互いが納得できる保育目標に沿ったより良いものになると思われる。</p>
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 ■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 ■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 ■ 9 内装等には、木材を利用している。 □ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 ■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 ■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。 	<p>[取り組み状況] 住宅地と田畑に囲まれた静かな環境であり、園舎のトイレは園庭からも利用できる作りである。 また、過去に羊の飼育小屋と使用していたものを、子どものままごと部屋（ゆきちゃんハウス）へと改装したり、泥団子作りのできる築山など、子どもの遊びが発展できる環境設定に取り組んでいる。</p> <p>[検討課題] 子どもの増加による改築・建て直しなどによる使いにくさもあり、部屋の構造・配置など、子どもの活動に対しての配慮・工夫を更に求めたい。</p>
		② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 ■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 ■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 ■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 ■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 ■ 18 せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。 	<p>[取り組み状況] 子どもがどこで何をしているか配慮するように心掛けて保育にあたり、個人記録を作成している。 そして、子どもを肯定的に捉えようとするラーニングストーリーを取り入れ、写真や子どもの言葉でエピソード記録としている。</p> <p>[検討課題] 一人ひとりの子どもを見る目を更に豊かにして、家庭環境や生活リズム、発達等による個人差を十分に把握し、それを職員間で共有することで、より質の高い保育の提供が可能と思われる。 そのことにより、保護者の理解も増し、成長の喜びを共に感じることもより進むと思われる。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
		③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。		b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。 ■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。 ■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。 ■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。 ■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>0～5才までの年齢の発達に応じた基本的な生活習慣(排泄・睡眠・清潔・衣服着脱)が身に付けられるように、年間計画に明記して、期ごとに実践できるように明文化している。そして、毎日の生活の中で習慣化された習得となるように、生活のリズム化に努めている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>常に保育の中で振り返り、基本的な生活の習慣化について家庭との連携を更に深めることで、その成果も増すと思われる。</p>
					④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	
		⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b)		

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
		⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b)	<input checked="" type="checkbox"/> 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。 <input type="checkbox"/> 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 <input checked="" type="checkbox"/> 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 44 保育士等が、友だちとの関わりの中を仲立ちをしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>子ども一人ひとりの気持ちを大事にした保育を心掛け、子どもの意欲を引き出すような、手作りのままごと道具や、ペットボトルを利用した玩具などもたくさんあり、ごっこ遊びを楽しむ姿がある。</p> <p>部屋の狭さの課題はあるものの、室内で自由に遊びが可能となるようにカーペットや机の設置など、空間づくり、環境作りに保育士の創意・工夫が視られる。</p> <p>[検討課題]</p> <p>トイレ・水道などの環境の整備は期待したいところである。</p>
		⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b)	<input checked="" type="checkbox"/> 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>子どもの発達に応じた保育に努め、異年齢交流も多く取り入れているので、体操や遊びなどでも子ども同志の交流があり、片付けも協力し合っている。</p> <p>運動・音楽・英会話・せんのおそびは、子どもの発達に合わせて専科の職員が教えている。</p> <p>そして、月2回のクラスだよりで、保護者に活動の計画を知らせている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>集団の中で子どもの個性が更に伸ばせ、自信が持てる保育の充実や、各年齢での課題をリスト化するなどして、系統的に組み入れていくと、より良い効果が得られると思われる。</p>
		⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b)	<input type="checkbox"/> 51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 <input checked="" type="checkbox"/> 57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 <input checked="" type="checkbox"/> 58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>支援を必要とする子どもには、加配保育士が対応し、心身障害児就学支援委員会での巡回相談に応じ、保健師・教育委員会のチームが来園し、子どもの発達を支援している。</p> <p>保護者や病院とも子どもの状態の確認をして情報の共有をしたり、職員は発達障害などの研修を受け、個別支援計画を作成して関係職員がそれを共有している。</p> <p>[検討課題]</p> <p>各種障害に対する理解を深める研修や勉強会を通して園全体のレベルを上げ、障害のある子どもを課題のある子どもと捉えることで、保育の手立てを工夫できる保育士の活躍が期待される。</p> <p>また、建物、設備などは障害園児だけでなく、保護者・祖父母などの障害者に配慮したものも期待したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。 <input type="checkbox"/> 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。 <input checked="" type="checkbox"/> 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。	<p>[取り組み状況]</p> <p>長時間希望の子どもが増加傾向にあり、未満児と年少、年中と年長と、ニクラスに分けて保育を行っている。降園時間を保護者に記入してもらい降園確認を徹底し、18時30分以降は補食を提供している。</p> <p>また、延長保育担当とクラス担当が異なるため、降園時にはクラス担当者の居場所を知らせるボードの掲示などの配慮もある。</p> <p>[検討課題]</p> <p>延長保育児の名簿作成だけでなく、その時間をどのように過ごしたのかの延長保育日誌などの導入で、日中保育での成長の証や改善事項の把握に活かすなど、新たな取り組みも期待したい。</p>
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	b)	<input type="checkbox"/> 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。 <input checked="" type="checkbox"/> 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。 <input checked="" type="checkbox"/> 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。 <input checked="" type="checkbox"/> 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。	<p>[取り組み状況]</p> <p>小学校との交流を緊密に行い、また、近隣の小学校長が評議員としてモニター会に出席しており、保育園への理解を進めている。</p> <p>園からも学校に行き、気になる子どもについて連絡を取りながら情報の共有をしている。</p> <p>散歩際には交通ルール、横断歩道の歩き方を教え、歩道橋を上って小学校まで向かうなど、登校練習も行っている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>就学についての学校との取り組みなどの年間計画を作成するなどすると、保護者との理解・共有も進むと思われる。</p>
	(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 <input checked="" type="checkbox"/> 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 <input checked="" type="checkbox"/> 77 職員に乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する必要な情報提供をしている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>子どもの健康管理に関するマニュアルが整備され、毎月、体重、身長測定を実施し、定期的、継続的な把握に努め、保育計画の中に0～5歳児までの発達段階に応じて健康な心と身体を育てる過程が明記されている。</p> <p>未満児では午睡時に5～10分のプレスチェックが行われている。</p> <p>市保育課からの「ほけんだより」、園からの「園のお知らせ」で、感染症の発生の際は状況を保護者に発信し、マスクとうがい用水筒の持参を進めている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>乳幼児突然死症候群の勉強会が開かれているものの、全職員の共通認識の更なる深まりを期待したい。</p> <p>SIDSや窒息のリスク、応急処置に関する知識習得の機会充実と、保護者へのそれらの情報提供、注意喚起は専門職としての務めと意識したい。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
		② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。		■	79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。	<p>[取り組み状況] 年2回の内科検診、歯科検診、年1回の聴力検査、尿検査を行い結果を保護者に伝え、治療が必要な場合はそれが済んだか保護者に確認を行っている。</p> <p>[検討課題] 歯磨きが正しく行われているか確認をするなど、各検査結果に異常がみられる子どもに対しては個別計画に盛り込み保護者と協力して、子ども自身が健康管理を意識できる取り組みが期待される。</p>
		③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。		■	80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。	
				■	81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。	
				■	82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。	<p>[取り組み状況] アレルギーの有無は入園申請時、予備調査と聞き取り調査を行い、医師の診察を受け、アレルギー対応食指示書に従い、保護者、調理師、園と面談を行い、緊急時の対応についても全職員が確認している。 そして、該当する子どもの一覧表が作成され、アレルギー、エピペン、投薬の預かりの他、緊急連絡先、主治医が記載され即座に対応できるものとしている。 なお、緊急対応・エピペン・AED研修も行き、給食の受け渡しの際には声だし確認も行っている。</p> <p>[検討課題] アレルギー疾患、慢性疾患等に関する学習会を更に充実させ、全保育士が共通の理解をより深めていくことが期待される。 併せて、好奇心旺盛な他の子ども達や保護者に対しての統一した説明について、園の規定の検討やその周知による意思統一は必要であろう。</p>
				■	83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。	
				■	84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。	
				■	85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。	
				■	86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。	
				■	87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。	
	(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。		■	88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。	<p>[取り組み状況] 「食生活に必要な習慣を身に付け・好き嫌いをせず、色々な食材に興味を持つ・自ら進んで用意、片付けをし感謝の気持ちを持ちながら友達と楽しく食べる」を保育の目標とし、年齢ごとの食育計画を立て、発達に合わせた援助に努めている。 園の畑で野菜を育て、野菜の生長を見たり収穫の喜びを知り、年長児の宿泊保育では収穫した野菜を夕食の食材とし、下準備をして食べたり、秋には育てたさつまいも、ネギ、大根を収穫しての芋煮会に地域の方を招き提供している。 また、毎月、家庭には献立表の他、給食たより、クラストよりを配布して食育について伝えたり、関心を持ってもらう取り組みが行われている。 提供された給食は献立と使われた食材の写真とともに給食室の前に掲示している。</p> <p>[検討課題] 子どもの食生活の基盤は家庭にあり、望ましい食習慣の形成や食への意欲を高めるため、保護者との更なる共有の取り組みが期待される。</p>
				■	89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。	
				■	90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。	
				■	91 食器の材質や形などに配慮している。	
				■	92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。	
				■	93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。	
				■	94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。	
				■	95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 ■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 ■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。 ■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 ■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 ■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 ■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 ■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>子どもの食べられる量、好き嫌いを把握し、配膳を行い、誕生会メニューや行事食が提供されている。少しずつ苦手な物も食べられるように声掛けに努め、年長は小学校に向けての正しい姿勢、食事マナー、時間を意識する声掛けで、楽しい食事時間の提供に努めてもいる。原則、検食は園長が行い、冬季には持参した主食が温かく食べられるよう配慮している。</p> <p>[検討課題]</p> <p>子ども向けの献立や食材・調味料の写真、併せて、県内産農産物の消費拡大は県を上げての取り組みでもあり、それらの産地や割合など、子どもや調理員だけでなく、保護者や保育士も理解できるような工夫も期待したい。また、就学を意識した20分での完食や、それが困難な子どもへの個別計画への落とし込みとその実践など、さらに工夫した関わり方も期待したい。</p>
	2 子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 ■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 ■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 ■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>未満児は連絡ノートで毎日保護者との情報交換を行い、以上児は保護者からの連絡事項のある時に連絡ノートを使っている。クラスたよりは月2回配布して2週間の予定とクラスの様子を知らせ、また、法人のホームページでのIDによる情報の提供もある。そこでは参観日、親子レクリエーション、運動会、なかよし音楽会等での子どもの成長を知る機会となっており、忙しい保護者にとっては好評で、また、子どもと一緒に見ることで家族のコミュニケーションの機会となっている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>ネット環境にない保護者についての配慮等も期待したいところである。</p>
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 ■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 ■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 ■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 ■ 112 相談内容を適切に記録している。 ■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>保護者とは日々の送迎時の会話、個人懇談等で信頼関係を築く様に取り組んでいる。また、園バス利用の保護者には、連絡帳に当日の子どもの様子を詳しく記載するなどの配慮もある。保護者からの相談については園長や主任が対応して、職員に状況を周知している。</p> <p>[検討課題]</p> <p>利用者調査においての属性では、父・母とも常勤者が多数を占め、平均年齢も保育士をはるかに上まわっており、保護者が安心して子育てができるように、面接相談の体制やそのマニュアル等の充実、また、相談・援助技術の習得・向上も更に期待したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。		<input checked="" type="checkbox"/> 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 115 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 <input type="checkbox"/> 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 b) <input checked="" type="checkbox"/> 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 <input type="checkbox"/> 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。	<p>[取り組み状況]</p> <p>朝の視診、身体測定時、おむつ交換時など、日頃の子どもの状態の観察などに努めている。 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合、市、保育課、子ども福祉課、児童相談所と必要に応じて連携が取れる体制に努めている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>虐待等権利侵害の基本知識、対策マニュアルについて職員間で研修を行ったり、発生の原因を知ることで、虐待の防止、リスクの軽減についての専門職としての可能性に期待したい。 また、園内での具体的な虐待にはどのようなものがあるのかなど、職員の意識を更に深める新たな取り組みも必要であろう。</p>
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。		<input checked="" type="checkbox"/> 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り(自己評価)を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 b) <input type="checkbox"/> 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>保育計画の月案に評価、反省の欄があり保育実践の振り返りとなり保育士は年度末に「自己振り返り表」を使って自己評価を行っている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>年度末の保育士の振り返り表や月案や学級運営まとめによる自己評価、それらを次のステップへ活かす継続的、組織的な取り組みの充実が期待される。</p>